

小児における窒息事故について（岩坪専門参考人）

窒息事故防止のために

岩坪哲哉

植物は自らエネルギーを合成し、生命を維持し実を結んで命をつなぐことができます。一方我々動物であるヒトは口から食べ物を摂取しなければなりません。そして「食べる」こと・摂食行動そのものが常に誤嚥・窒息の危険性を孕んでいることは想像に難くないことです。諸先生方の熱心なご研究をお聞きし、例えば物性のこと、また、摂食事故に対する親の意識の問題その他、それぞれのお立場での研究の成果は、食品の安全性への意識を生産者また消費者に喚起することに役立てていかなければならないと考えます。一方、食べる主体であるヒト・摂食行動そのものが危険と隣り合わせであるとしたら、しかも摂食機能の未熟・衰えに対し、どう対策が立てられるかを考えてみたい。

1. 「食べること」の危険性を少しでも軽減するため、詰まりにくい小さい物・軟らかく喉の通りのよい物を選ぶ。
2. (1) が可能として、そうした時の弊害。食機能の発育が阻害される。機能の正常な発育は、また、衰えの予防は使うこと。
3. 正常な発育はどう促されるか。
発育段階にふさわしい形態・食品・食行動（介助）が欠かせない。
衰えに対しては、その衰えの程度に応じた介助（出来る機能を生かす）をする。
4. 保育・介助に携わる方々は日々熱心に工夫し、苦勞をなさっています。その成果を、一般の親自身が知っている必要がある。時間がかかるが、このことが肝腎と思う。